



平成22年度 第15回松茶会定期総会開催 役員選考委員の選出・ 規約改正が主な議題

平成22年度の松茶会定期総会が6月12日(土)の13時から二松學舎大学11階の会議室で開催された。6月の総会は今年度で2度目であった。

22年度総会は、来賓として佐佐木鍾三郎及び末吉榮三顧問・大山徳高理事長をお迎えした。渡辺和則学長は所用のため欠席した。全国から24支部の支部長が出席した。

本年度の総会における審議は若干の規約改正が主であったが、すべて異議なく承認された。最初の予定では総会終了後、支部活動の活性化のために活動の顕著な支部長から運営内容について説明して頂



く予定であったが、時間が無くなつたためにできなかつたのが残念である。

昭和62年12月1日創刊
平成22年11月20日発行
二松學舎松茶会
〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16 ☎03(3261)7408
振替口座 00180-5-160343
印刷 (株) サンセイ
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-11-10 ☎03(5614)2515

しかし、本年度の支部活動を見ると例年より少しではあるが増加している。今後とも各支部長の活躍を期待したい。支部活性化の協議が出来なかつたことへの不満の声もあつた。来年度は総会の審議内容を切り詰めてでも実現したい。また、本部と各支部との連絡についてホームページ等をもっと活用すべきであるとの意見もあつた。情報化に詳しい会員からの具体的な内容の提案を求めたい。

出席者は次の通りである。

来賓

- 佐佐木鍾三郎顧問
- 末吉 榮三顧問
- 大山 徳高理事長

本部

- 神津賢一郎会長
- 松田 存副会長

- 平田 雅利副会長
大地 武雄幹事長
緑川 佑介事務局長
磯 水絵監事
山岸 英毅監事

常任幹事

- 丸山祐三郎
- 畑 功
- 平岡才二郎
- 小林 憲二
- 源川 進
- 奥井 基継
- 五十嵐 清
- 神河 秀春
- 廣田 克己

幹事

- 山崎 郁紀
- 芹川 哲世
- 小林 公雄
- 小町 邦明
- 小西 明德

支部長

- 奥村悠二郎 (北海道)
- 宮本 義孝 (岩手)
- 千葉 仁 (宮城)
- 斎藤 裕 (山形)
- 北村 博 (福島)
- 桜井 哲夫 (栃木)
- 新井 喜義 (群馬)

事務局

- 町田 哲夫 (埼玉)
- 辻 将一 (千葉)
- 木村 正雄 (東京)
- 植松 永雄 (山梨)
- 関 保典 (長野)
- 坂井 福作 (新潟)
- 中道 佳宏 (福井)
- 永井 陵次 (静岡)
- 浅田 資道 (大阪)
- 小谷 章公 (鳥取)
- 江角 仁 (島根)
- 大倉 明子 (徳島)
- 大西 邦美 (香川)
- 永淵 道彦 (福岡)
- 黒瀬孝志郎 (長崎)
- 宮崎 宣幸 (宮崎)
- 金城 健一 (沖縄)
- 畠山 幸治 (順不同 敬称略)

総会は五十嵐常任幹事の司会により、開会が宣言された。その後、例年通り物故者への黙祷から進められた。会長挨拶の後、大山理事長の挨拶をいただいた。緑川事務局長から、構成員72名中、出席者45名、委任状24名の合計69名で総会が成立することが報告、確認された。

平成21年度会計収支決算書

(平成21年4月1日～22年3月31日)

1. 経常費	単位 円	
(収入の部)	決算額	
前年度繰越金	2,444,233	
入会金	3,905,000	
小計	6,349,233	
会費		
新卒者終身会費	10,500,000	
既卒者終身会費	651,220	
小計	11,151,220	
利息	25,812	
雑収入	5,000	
収入の部合計	17,531,265	
(支出の部)		
事業費		
卒業生懇親会費	645,656	
松苓会報等発行		
印刷制作費	552,756	
発送費	431,806	
『茯苓』発行費	275,782	
小計	1,260,344	
支部助成		
支部運営助成費	1,284,855	
支部報発行助成費	450,000	
支部強化助成費	0	
小計	1,734,855	
母校支援事業		
教育振興資金助成費	1,000,000	
教育事業後援費	100,000	
松苓会奨学基金	1,000,000	
教育研究大会助成費	100,000	
小計	2,200,000	
在学生支援事業		
学園祭助成費	50,000	
課外活動助成費	120,000	
県人会助成費	0	
卒業記念品	792,820	
小計	962,820	
事業費合計	6,803,675	
運営費		
会議費	134,590	
旅費・交通費	1,878,114	
職務通信費	433,800	
通用品	85,670	
備品	501,618	
印刷費	51,065	
消耗品	72,803	
慶弔費	51,750	
謝礼金	9,750	
手紙料	70,180	
雑費	1,370	
運営費合計	3,290,710	
松苓会基金		
周年事業積立金	1,000,000	
積立金	3,044,000	
小計	4,044,000	
予備費	100,275	
松苓会基金・予備費合計	4,144,275	
支出の部合計	14,238,660	
(収支残高)	3,292,605	

議案審議

1. 平成21年度事業報告

緑川事務局長から平成21年度事業報告ならびに支部活動報告があった。

平成21年度の主な事業報告は次の通りである。7月に九段校舎3号館が落成し、竣工記念式典が開催された。神津会長が出席した。今年度も松

松田存副会長の議長選出のあと、書記に小林憲二常任幹事・小町邦明幹事が任命された。

平成21年度人事異動・支部長交代はなかった。

「祝入学」の垂れ幕を作成した。これは、昨年までのものとは異なり、横幕として、大

学校舎入り口に掲げた。

支部総会を開催した支部は次の通りである。

北海道・岩手県・秋田県・山形県・長野県・群馬県・東京都・千葉県・神奈川県・静岡県・三重県・鹿児島県・宮崎県・近畿連絡協議会・香川県。

なお、北海道は道南分会・道東分会、千葉県は香取・海

匠・山武地区会も開催した。

例年より微増している。

支部報発行助成費について

は、近畿連絡協議会創立60周

2. 平成21年度収支決算報告・会計監査報告

緑川事務局長から収支決算報告、磯監事から会計監査報告があった。

松苓会積立金については、他に運用することなくそのまま積み立てる方針を確認した。

審議の結果、異議なく承認した。

なお、収支決算書の予備費の使い道、決算額の支部強化助成費、県人会助成費が0円になっていることへの質問があった。

3. 平成22年度事業計画案・会計収支予算案

緑川事務局長より平成22年度の事業計画についての提案があった。

「松苓会」の活性化について、ホームカミングデーと総会の日程について、総会開催日の固定化について審議した。

各内容についてはそれぞれ検討事項とすることで承認した。

平成22年度予算について提案があり、支部運営助成費などについて予算額を見直すこと、ホームカミングデーの予算を10万円上乗せすることなどを審議し、承認した。

4. 役員候補者選考委員の選出について

大地幹事長から、現役員(会長・副会長・監事)の任期が平成23年7月31日付で任期満了となることに伴い、選考委員を選出するよう要請があった。

役員候補者選考委員は「二松学舎松苓会細則」第8条2項に「役員候補者選考委員は、常任幹事から3名、幹事会から3名、総会から3名、計9名を互選または投票によって選出する」とある。

幹事会からの選考委員は、山崎 郁紀(北海道) 斎藤 裕(山形)

平成22年度会計収支予算書
(平成22年4月1日～23年3月31日)

1. 経常費	単位 円
(収入の部)	予算額
前年度繰越金	3,292,605
入会金	4,220,000
小計	7,512,605
会費	
新卒者終身会費	11,535,000
既卒者終身会費	500,000
小計	12,035,000
受取利息	30,000
雑収入	0
収入の部合計	19,577,605
(支出の部)	
事業費	
卒業生懇親会費	800,000
松苓会報等発行費	
印刷・制作費	1,000,000
送付費	1,000,000
「茯苓」発行費	500,000
小計	2,500,000
支部助成	
支部運営助成費	1,500,000
支部報発行助成費	500,000
支部強化助成費	300,000
小計	2,300,000
母校支援事業	
教育振興資金助成費	1,000,000
教育事業後援費	200,000
松苓会奨学基金	1,000,000
教育研究大会助成費	100,000
小計	2,300,000
在学生支援事業	
学園祭助成費	50,000
課外活動助成費	200,000
県人会助成費	200,000
卒業生記念品費	1,000,000
小計	1,450,000
事業費合計	9,350,000
運営費	
会費	250,000
旅費	2,000,000
職通	450,000
備信	160,000
印品	500,000
消刷	100,000
慶品	100,000
謝吊	100,000
手札	50,000
雑数	100,000
小計	3,800,000
松苓会基金	
周年事業積立金	1,000,000
積立金	3,276,000
小計	4,276,000
予備費	2,151,605
合計	19,577,605

小林 公雄(埼玉)
の3名が選出されている。
総会からの選考委員は互選の結果、
木村 正雄(東京)
廣田 克己(神奈川)
辻 将一(千葉)
の3名が選出された。

5. 会則改正について
大地幹事長から、会則(含細則)改正の提案があった。内容は次の通りである。
二松學舎松苓会会則
第9条4項「議決」↓「協議」
第14条2項 「但し、会長が」以下削除

第22条・第23条及び第26条の「幹事会の議を経て」を削除
二松學舎松苓会細則
第5条2項 削除
但し、本年度は幹事会は開催する。

6. 奨学金制度について
大地幹事長から、奨学金制度について次のような提案があった。
奨学金は今までは給付であったが、有効活用のために今は貸与とし、回収は松苓会で実施する。審議の結果、異議なく承認された。
なお、奨学金に関する諸規

定整備の要望があった。
7. 課外活動助成について
大地幹事長から、課外活動助成金について提案があった。今まで大学・父母会・松苓会が個別に助成してきた助成金の支給方法を改め、より有効な方法を協議し、助成ではなく育成として考える。審議の結果、異議なく承認された。

8. 支部活動について
大地幹事長から、支部活動については停滞の支部が見られる。
法人が卒業生校長会・卒業

生入試験談話会に卒業生を集めているが、集まってくる人たちは松苓会会員なので、会合に本部役員などが出席して松苓会をPRすることも必要である。今後の課題として協議すること、承認された。
(報告事項)
①法人との連絡協議会について
神津会長から、過去3回の協議会の報告があった。
特に、昨年9月の協議会は、本協議会の名称について協議し、法人側は「大学との連絡協議会」でよいとの主張であり、松苓会は、従前の通りの名称としたとの主張を繰り返

返した。この件は折り合いが付かなかったことが報告された。
②ホームカミングデーの進捗状況について
大地幹事長から、ホームカミングデー実行委員会が開催され、講演者(本学卒業生の落語家 三遊亭兼好)・予算の増額・会費をとらない等の報告があった。
③その他
最近の卒業生名簿の各支部への送付要請があった。
二松學舎大学の「學」の文字について本字に統一すべきとの意見があった。

平成22年度二松學舎大学

ホームカミングデーを終えて

松苓會幹事 小西 明德

本年度のホームカミングデーは、今夏の猛暑の兆しを満々と湛えた8月1日(日)、大学九段校舎で開催された。既に開催6回を数え、夏の一大イベントとして、すっかり定着した感がある。参加の卒業生からも「夏は母校回帰」との声も聞かれ、炎天下の九段坂を上る煩わしさも、学生時代に戻るとの大切な手続きであるということであった。

そうして恩師・旧友・先輩・後輩と再会することが、また一層の喜びとなるようだ。年を追う毎に盛大になり、多くの卒業生から好評をいただいているこの催しも、本年度は、様々な観点からプログラムの見直しを行い、より参加しやすく、また楽しめる内容にしようと、実行委員会が検討を重ねた。そして新たな企画として、今年度は九段校舎を「寄席」にして、落語を一席設けることとした。

本学の卒業生は、様々な分野で活躍されているが、古典芸能・落語の分野でも真打ちにまで昇進し、大活躍されている方がいる。三遊亭兼好師匠である。

ご存じの方も多いと思われるが、兼好師匠は本学文学部第60回の卒業である。学生時代は国語学を学び、卒業後、会社員・タウン誌記者を経て、三遊亭好楽師匠に弟子入り、入門10年という異例の速さで真打ちに昇進している。厳しい稽古に裏打ちされたその芸は、数多くの賞を受賞し、多くのファンを魅了している。

その兼好師匠に、今回のホームカミングデーを「より楽しめる」という趣旨のもと協力を依頼した結果、1日限りの寄席「二松學舎亭」が誕生した。

本学吹奏楽部の見事な演奏の後、休憩を挟み、いよいよ「二松學舎亭」開演である。兼好師匠は、古典落語の「青葉」を演目を選び、観覧する

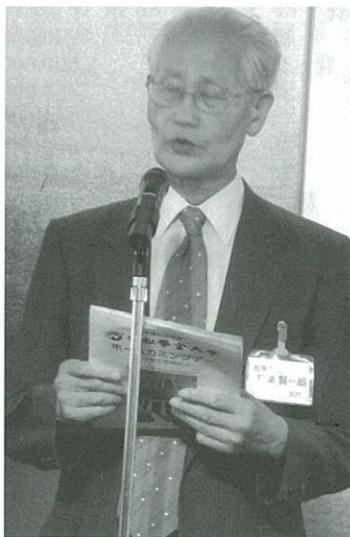
卒業生の方々を大いに沸かせ、さらにその芸に引き込み魅了した。気が付けば、あつという間の1時間であった。卒業生からも多数「楽しかった」との声が聞かれた。

寄席「二松學舎亭」で楽しんでいただいた後は、13階ラウンジにて開会式が行われ、神津松苓會会長、渡辺学長の挨拶があり、大山理事長からは祝辞をいただいた。懇親会では、本学名誉教授の方々も多数参加され、卒業生との昔話に花を咲かせていた。

卒業生による「作品展」や「企画展」も好評であった。力作揃いの「作品展」では、書・写真・絵画・彫刻等の作品群が見る者の目をくぎ付けにした。「企画展」は、大学資料展不室で「和本さまざま」と題して様々な資料を展示し、卒業生の知的好奇心を大いに刺激していた。



ホームカミングデースナップ



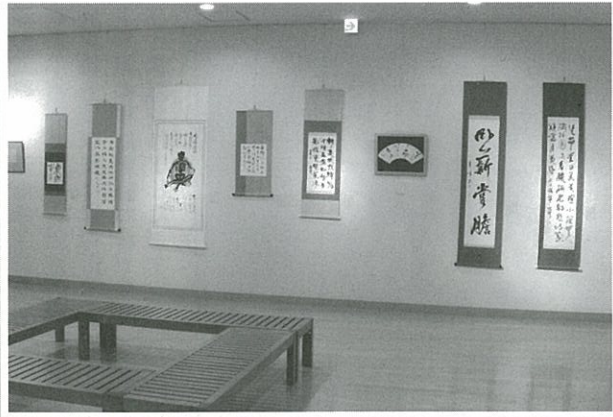
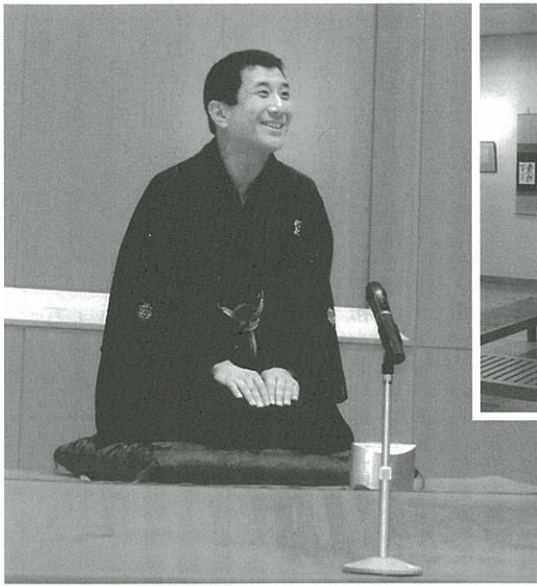
神津会長



大山理事長



渡辺学長



平成22年度支部総会報告

◇北海道支部

事務局長 山崎 郁紀

平成22年度北海道支部総会は、8月21日(土)本部から大地幹事長を迎えて、札幌市内「シーマーケット」で開催されました。

総会では、昨年度活動実績報告(総会・道南分会総会・道東分会総会・新年会)及び、決算報告(収支ほぼ均衡)、予算案の検討が行われ、それぞれ承認されました。



今回の総会時期が道内の学校の夏休み終了時期に重なったせい、校長、教頭等の役職者の参加がなかったことは残念でしたが、出欠返信葉書には同窓各位の活躍や、うれしい近況が寄せられ、次回の参加や、道南分会・道東分会への参加が記されていて支部活動の一体感が感じられました。総会後の親睦会は、いつも乍ら新鮮な魚料理で話の花が咲きました。大地幹事長は「おいしい、おいしい」とウニとカニに感嘆の声をあげていました。北海道支部はこの総会の後、秋にかけて9月4日函館で道南分会総会、10月23日釧路で道東分会総会が開催されます。また、正月には新年会も予定されており、後日報告させていただきます。

支部総会参加者
奥村悠二郎(36期)
山崎 郁紀(36期)
増井 義昭(39期)

- 不動 和則(43期)
- 吉野 泰正(55期)
- 若松 顕仁(56期)
- 奥本 将晴(64期)
- 永田 哲之(65期)

◇岩手県支部

支部長 宮本 義孝

平成22年度の松苓会岩手支部総会は、7月25日(日)午前11時から、「ホテル シティプラザ北上」で開かれた。

出席者は、5名だった。畑功、小山尊史、目黒泰の3氏と宮本、それに今年には本部から緑川佑介事務局長が参加された。監事の小山さんには総会が始まる1時間前に来て会計監査をすませてもらった。詳しくは収支決算報告のとおりだが、岩手県の場合は、およそ17万円の収入に対し15万円ほどの支出である。

支部活動で主なものは、総会・懇親会の開催と会報の発行の2つだった。緑川事務局長からは、講演会などをやったかどうか、との助言もあったが、ぎりぎりの予算と会員の協力態勢を考

慮すると、にわかの実現は無理なようだ。それでも連絡がとれた144名の会員のうち、47名から会費納入があり、また、この一兩年、会費の外に、総会・懇親会の盛会を願って余分にお金を入れてくれたり、会報発送の足しにと、切手を同封してくれたり、返信に、ねぎらいの言葉を添えてくれる人もあり、大変に励まされた。更にもう1つ有り難かったのは、昨年から、会報づくりに、盛岡で印刷会社を営んでいる二松学舎の後輩が協力してくれるようになったことだ。お陰で、会報を7回発行したわりには、不足が本部からの助成を大きく超えるこ



とはなかった。

呼びかけに反応を示さない頑な会員もいるかわりに、このように援助したり励ましたりしてくれる会員もいる。

出席者が少なかった分、進行も形式ばらず打ちとけて、めいめいが、意見を思いの丈語り合っており、それはそれ良かったと思っている。

その後、懇親会は水を湛えて悠然と流れる北上川を眼下に、濃緑深く重なる山々の連なりを遠くに見渡せる座敷に席を替えて行われた。

季節は年毎に廻ってくるが、人は川の流れるのように去っては戻ってこない。一昨年は、佐藤美次先輩を失い、昨年は佐々木英司君を亡くした。

この美しい天然の中で、今、生きてこの世に在る喜びを、会話の盛り上がり肴にして皆で満喫したのである。

◇千葉県支部

支部長 辻 将一

去る8月21日(土)午後3時より、千葉県庁前の喫茶『ボンヴィル』に於いて、松苓会

千葉県支部総会を開催しました。

来賓として、松苓会本部から平田雅利副会長、更に東京都支部長木村正雄氏、東京都支部長矢澤喜成氏、神奈川県支部長代理中川俊一郎氏の4名をお迎えし、総勢21名の御出席を得ました。白熱した御質問・御意見等を賜り、今後の千葉県支部の発展とその活動の在り方に、大いなる活力を注入して戴けたものと衷心より感謝しております。

その後、懇親会へ移行。世代を超えた先輩・後輩の分け隔てのない会話、近況報告等を語り合いながらお互いの親密さを益す関係。中には、卒業以来の再会に懐かしく話に華を咲かせたり、後輩・母校への想いに白熱した意見を述べたりと、時間を忘れてのあつという間の一時でありました。「この会の存在が、新たな人間関係構築の一助と成り得るなら、……」とその重責を再度実感させられた次第です。御出席戴いた方々には、改めて御礼申し上げます。
喫茶『ボンヴェイル』の経営者、竹内恵子氏(大34)の御



協力を得て3年目。来年も、この時期・この場所だと予定しております。残念ながら、今年出席できなかった方は、来年こそ、是非とも御出席戴けるものと確信して、切にお待ち申し上げております。

【御協力の御願い2つ】

①「二松學舎大学松苓会千葉県支部」は、二松學舎大学・大学院を卒業した方々お一人お一人の参加する組織です。千葉県支部会員資格者は、原則として、卒業後千葉県に在住されている方々で、今年度現在、約4000名いらっしゃ

います。

転勤・転居その他諸事情で卒業後の消息が不明となっている方々が1割以上おいでになるようで、郵送しても戻ってきてしまうのです。経費削減、無駄をなくす意味でも、変動発生次第、速やかに動向確認を連絡してください。宜しく御願い申し上げます。

②千葉県支部の活動資金が御座いませぬ。支部会員費納入者は、現在、僅かに40名足らずです。

松苓会本部からは、20万円の助成金を戴いて居りますが、仮に会員全員に郵送するとなると、80円×4000人＝320000円必要となり、それすら不可能な状態です。こんな逼迫した状態の活動です。

どうか、皆様の会費納入への御理解と御協力を御願い致します。(年会費1000円、一括3年分納入)
寄附・賛助も喜んで頂戴致します。

支部長 辻 将一
電話・FAX

043-231-9835
事務局長 土屋 誠
電話・FAX

043-268-9605
【振込口座】

千葉銀行 柏支店
(店番号008)

普通預金 3632164
(名義)

二松學舎松苓会 千葉県支部

◇東京支部

支部長 木村 正雄

平成22年7月17日(土)「ホテル はあといん乃木坂」(健保会館)において、役員会・常任幹事会を開き、全議案の承認があり、役員任務分担の上、午後2時より総会を開催した。

来賓に渡辺和則学長・附属高校橋本喜一校長・神津賢一郎会長・桜井哲夫栃木支部長・簡野泉千葉副支部長・神奈川支部片桐佐和子事務局長をお迎えして開会した。

近畿連絡協議会末吉榮三代表より祝電を受ける。

初めに、木村支部長の開会挨拶があり、次いで議長に松

田存常任幹事(副会長)を選出して議事に入った。

1号議案の平成21年度活動報告、2号議案の決算報告および監査報告があり、いずれも承認された。

3号議案の平成22年度活動報告と4号議案の予算案について、質疑応答の後、異議なく承認された。



■21年度活動報告

6月 支部報第44号発行、本部総会に支部長出席

7月 支部再発足25周年総会・祝賀会をホテル東急大森インにおいて開催。第9回生

涯教育講座も開催。講師・渡辺和則学長、演題「未曾有の危機・日本経済の今後の動向」(参加50名)。

8月 千葉・神奈川・静岡各支部の総会に役員派遣。

10月 支部報第45号を発行

11月 文学散歩を実施、コースは、漱石ゆかりの文の郷、文京ふるさと歴史館・菊坂界隈・東大三四郎池・湯島聖堂・吾輩は猫である記念碑など(参加11名)

22年1月 支部報第46号を発行、神奈川支部新年会に役員派遣。

3月 第10回生涯教育講座を二松學舎大学九段校舎で開催、講師・石川忠久元学長、演題「大正天皇と三島中洲—漢詩に見る師弟の情」(参加60名)

22年度活動計画

6月 支部報第47号発行

本部総会・支部長出席。

23年度よりの松苓会本部役員候補者選考委員に木村支部長選出される。

7月 総会・懇親会を開催。

第11回生涯教育講座を開催。

講師・渡辺和則学長「三島中洲とアダム・スミス—経済と倫理」(参加35名)

8月 神奈川・千葉両支部総会に役員派遣。

10月 支部報第48号発行

11月 文学散歩「国会議事堂・憲政記念館」見学

23年1月 支部報第49号発行、神奈川支部新年会に役員派遣。

3月 第12回生涯教育講座開催、(講師未定)

懇親会は、来賓の神津賢一郎松苓会長の乾杯でスタート。

途中で、支部長から来賓の紹介があり、明德出版社社長の小林眞智子様より「論語の教科書」の著者である須藤明美さん(40期)の紹介があり、全出席者に同著書の贈呈があった。

その後、佐佐木顧問の話やカラオケで大いに盛り上がった。(出席者35名)

◆神奈川県支部

支部長 廣田 克己

平成22年8月8日(日) 暑



さ厳しい中、JR根岸線本郷台駅前にある県立地球市民かながわプラザにて10時より第33回松苓会神奈川支部定期総会が開催されました。

平野光治氏の開会の辞に始まり、廣田克己支部長の挨拶では他支部との交流による活性化の推進、昨年発足の「教員の会」より本日、平光慎思郎氏、齋藤一美氏の出席に至る経過説明がされました。

来賓の挨拶は松苓会本部幹事長大地武雄氏より祝辞をいただいた後、「大学の現状に

ついて」の報告では本学の存在価値の向上をはかるためには教育研究のレベルアップが課題であり、これらに対応すべく「大学改革検討会議」を始めとするプロジェクトが動き出している事が説明された。

併せて国文学科山崎正伸教授からも大学側の改革における状況が説明されました。

議事進行に入り議長に前田明氏を選出し、平成21年度事業報告、同年会計報告が事務局長片桐佐和子氏から行われ、次いで監査報告が田中憲明氏からあり承認されました。

次に平成22年度事業計画、同年予算案についても満場一致で承認され、すべての議事が終了しました。

次いで、恒例の「文学歴史探訪」計画案として川崎地区長小林孝彰氏より10月24日(日)「川崎生田緑地・日本民家園」の紹介が発表された。

総会終了後、二松學舎大学学長渡辺和則氏による「三島中洲とアダム・スミス—経済倫理論の視点から—」の講演があり、アダム・スミスの「道徳情操論」と三島中洲の「道徳経済合一説」の各々には矛

盾はなく調和的であることを究明しようとした両者の倫理観に聞き入りました。

講演終了後、来賓、講演者ならびに参加者一同記念撮影をし、プラザ内のレストランに席を移し、学長渡辺和則氏の挨拶に続き東京支部長木村正雄氏の乾杯により昼食会に入り、今回支部交流として静岡支部長永井陵次氏から丁寧な祝辞をいただきました。

その後、参加者全員より夫々一言いただき懇談の盛り上がりの中、副支部長の保田完次氏の閉会の辞で終了しました。

総会出席者は次のとおりです。(敬称略)

来賓

本部幹事長 大地 武雄
静岡支部長 永井 陵次

講師

二松學舎大学学長 渡辺 和則

出席者

東京支部長 木村 正雄 (25回)
教員の会 平光慎思郎 (41回)
齋藤 一美 (47回)

神奈川県支部

支部長

廣田 克己

(修5回、38回)

副支部長

保田 完次 (41回)

横浜委員

浅居美智子 (33回)

横浜会員

中安 文恵 (46回)

川崎地区長

小林 孝彰 (38回)

川崎会員

山崎 正伸 (博10回)

三浦地区長

前田 明 (修15回、48回)

県央地区長

平野 光治 (40回)

県西地区長

田中 憲明 (38回)

県央会員

保田 陽子 (39回)

県央会員

佐藤 馨 (政修5回)

事務局長

岡野 桜 (72回)

事務局長

片桐佐和子 (57回)

◇静岡県支部

支部長 永井 陵次

暑い。とにかく猛暑でした。

8月29日(日)、沼津東急ホテル「源氏」にて平成22年度静岡県支部総会が開催された。

松茶会本部より磯水絵先生、神奈川県支部より支部長廣田克己氏を迎え、参加者総数14名。東京支部長の木村正雄氏も出席予定であったが、暑さによる体調不良とこのことで、残念ながら御来席願えなかつた。



支部総会通知は名簿で把握し得る支部会員452名に発信し、61名より返信があり、6通は宛先不明で戻って来た。

昨年支部総会で新たに承認されたことが2点あり、①県東・中・西部で会場を持ち回り開催すること。②最新卒業生(会員)を招待歓迎すること。①については簡単な様でも不案内な土地で適切な会場を設定することは難しいことであったが、東部幹事さんが積極的に動いてくれて良い会場が確保できた。②の点は通知の届く住所は御実家であって、現実の居住地と一致していないであろうことは最初から予測もしていたし、社会人一年生が遠い郷里の松茶会行事に参加することも困難が伴うだろう。実際参加返信は1通もなかった。しかし名簿上の支部以外からは彼等には何の通知も届かないのだから、応援のメッセージをこめて今後も招待歓迎の通知を続けようと思う。

さて、支部総会懇親会であるが、久しぶりに14名もの顔ぶれが集まり賑やかに盛り上がりを見せた。いつもはあまり

り進まない飲み物も今年は十分に楽しんでもらったと思う。忙しい事情もあるであろうにこの日に都合をつけてお集り下さった会員各位に感謝である。

またこれは昨年からであるが、東京支部長の木村氏に御出席をいただき、今年は神奈川支部との間で互いに総会を訪問し合うなど、近隣支部間の交流のきっかけができたのは大きな収穫であった。今後この交流が有意義なものとなるよう、連絡を密にして大切に育ててゆきたいと思う。

◇長野県支部

副支部長 清水 登

平成22年度の松茶会長長野支部総会は7月25日(日)、公立学校共済ホテル信濃路(長野市岡田町)において、来賓に松茶会長神津賢一郎先生、文学部長江藤茂博先生をお迎えし開催された。

当日の出席者は、嘉部益次氏(顧問、17回)、関保典氏(支部長、35回)、清水登(副支部長、42回)、大工原明人



氏(幹事、42回)、杉村修一氏(51回)、柳澤宏至氏(55回)、江村春彦氏(幹事、57回)の7名であった。

総会は、支部長挨拶として九段キャンパスに大学の機能を集中させることを基本とする大学の基本構想について報告があった。来賓の神津会長からは8月1日に開催されたホームカミングデーを中心に大学の近況について報告がなされた。議長に関支部長を選出し、議事についての審議がなされた。

議事としては、平成21年度

活動報告と平成21年度会計報告、平成21年度監査報告、平成22年度予算案の順序で提案され、承認された。

質疑応答としては総会における出席者の減少について協議され、神津会長からは総会等の開催場所を各地区で持ち回りで開催する静岡県支部における方法について説明があり、参考意見として検討することとなった。

総会終了後、江藤文学部長より「メディア論からのサブカルチャー文芸史―少年少女の表現文化―」と題し記念講演がなされた。先生の熱心な講義に引き込まれ、会員全員が学生時代に戻り、貴重かつ有意義な時間を共有することができました。

◆広島県支部

支部長 平岡 才二郎

広島県支部の総会は、毎回大学の「地区別父母懇親会」が広島で開催される日程と併せて開催しています。

今回は、7月25日。スケジュールは、父母会終

了後の午後2時を視野に実施しました。

☆支部総会

午後2時～2時30分

会議内容は、決算報告と併せて事業報告を行った後、当日ご臨席の松苓会本部役員、松田存副会長(名誉教授)、奥井基継常任幹事から松苓会の状況を聞きました。

◆今回の参加者

平岡才二郎(26回・昭和33年卒)
中村 武彦(33回・昭和40年卒)
村山 慶郎(47回・昭和54年卒)
金子 徹(50回・昭和57年卒)
丸山 浩明(51回・昭和58年卒)
全員文学部。

◆広島県の特徴

廃藩置県により備後国と安芸国から成立した。
備後の中心部、福山市から広島市は約100km。
福山市方面からの参加は、非常に少ない。昭和60年、46回の能宗三枝子が福山市からの最初の参加。
平成16年の父母会の折りに、33回的小林富子(旧姓中司)。同18年の支部総会には、25



回の丹下一夫。51回の矢野龍晴が東広島から。
以上、平岡の記録から。

☆懇談会と懇親会、及び大学との交流

2時30分～4時30分
大学の現況を聞くなど、フリーで懇談を楽しんだ。
大学からの出席者
渡辺 和則 学長
井上 和男 教学事務部長
長 九段

☆平和学習

平和記念公園の見学、全員で、5時出発。

以上が支部総会の報告。

☆訃報(返信による)

坪野 政之 (11回・昭和18年卒)
藤田 裕子 (63回・平成7年卒)
一昨年五月、交通事故により逝去(父親代筆)
謹んでお悔やみ申し上げます。

☆住所変更

丸山 浩明 (51回・昭和58年卒)
広島市から福山市へ。

☆住所不明

今回の連絡で返送の方。
奥本 洋 (39回・昭和46年卒)

高橋 隆

(41回・昭和48年卒)
松本 宏彦 (43回・昭和50年卒)

皿田 文隆

(48回・昭和55年卒)
堀内 泰之 (48回・昭和55年卒)

相沢 由佳

(57回・平成元年卒)
亀谷 大樹 (国際3回・平成9年卒)

桑田 裕司 (66回・平成10年卒)

清原 健 (74回・平成18年卒)

※住所をご存じの方は、電話082-2322-3614
平岡までご連絡下さい。(全員、敬称略)

◆福岡県支部

永淵道彦支部長が、このほど(十月)短期大学教育発展への功績で高木義明文部科学大臣より表彰されました。

◆大分県支部

支部長 加茂 忍

平成22年8月28日(土)、松苓会副会長松田存氏を迎えて大分県支部総会が別府市亀川「かみ川」で開催されました。

米寿を迎えた平野芳彦(専14)氏の北京、萬里長城、東京では深大寺散策の話。
畔津真知子(大34)夫妻の闘病生活、出版された井伊直弼「茶湯一会集」、松浦静山

「常静子劍談」の現代語訳本のこと・・・。

加茂忍(大36) 動脈硬化に依る左足バイパス手術と足指4本切断の為5月から3ヶ月



寄贈図書紹介

(新刊書)

平成22年度の寄贈図書は、次のとおりです。

拓殖大学学友会創立百周年記念

「月日は百代の過客にして」

入院した事・・・。
伊藤公祥(大41) 還暦を迎える年令になりました・・・。

富藤馨信(大43) 臼杵義護の様子・・・。

中井則夫(大47) 特養ホームでの活動と、今夜は夜勤とのこと・・・。

甲斐啓一郎(大52) 杵築高校2年目、通勤1時間・・・。

池見香(大60) 在学中、松田存教授のゼミで海外研修、ハプニング行動で教授に心配かけたことなど・・・。「あつ」と言う間の2時間半。

当日大分で行われた「エグザイル公演」のため大分・別府で宿泊のとれなかった松田副会長は急ぎ汽車にて小倉までと忙しい日でも有りました。

拓殖大学学友会
歌集「歳華」
杉野茂著 砂子屋書房

「紫式部日記傍註」
岸元史明著
国文学研究所(三〇〇〇円)

松江開府四〇〇年 そのルーツを求めて「出雲の国富田城

平成22年度 秀葉会 (第38回生同期会)

小林 憲二

平成22年度秀葉会が、ホームカミングデーが行われた、8月1日(日)15時20分から、グランドアーク半蔵門(旧半蔵門会館)に於いて、12名の参加により、開催されました。

物故者への黙祷に始まり、近況報告、学生時代の思い出話等で盛り上がりました。今回、都合が悪く、ハガキで近況報告の会員のなかには、お孫さんの話題、自身の健康状態、両親等の介護、新しい職場での奮闘振りが書かれていました。

当日の参加者は次のとおり

(主)の変遷―松平廣瀬藩ま

の歴史―
藤田佳應編

「能楽遊歩道」
松田存著 かりばね書房
(一七―四円+税)

「紫式部日記関係史料解説三」
岸元史明著
国文学研究所(三〇〇〇円)

です。(敬称略)

東 一雄・生垣しげ子
石塚 法子・上田 幸子
黒瀬孝志郎・小林 公雄
小林 憲二・酒井 淳吉
永井 陵次・廣田 克己
望月 昇・吉田 均

来年も、ホームカミングデー当日に、秀葉会を開催いたしますので、宜しくお願いいたします。

尚、ホームカミングデーのみの参加者として、加藤早智子さんと小杉絹代さん。作品

二松学舎大学が讀賣新聞に載る

桜の下で筆を持つ

千鳥ヶ淵や靖国神社といった桜の名所に囲まれた千代田区(二松学舎大(三番町)前で、桜を眺めながら書道を体験できる「桜と書と人とのコラボレーション」が行われている。

文学部で書道を専攻してい

展に、青山俊子さんと岩佐陽子さんが出品されました。



る学生約20人が企画。校舎入り口前の特設会場で、学生の助言を受けながら、春を詠んだ短歌や漢詩の語句、好きな絵を、色紙や短冊に書ける。

27日には、通りがかりのカップルなどが、学生とおしゃべりしながら、思い思いの書を楽しんでいた。企画した2年生の久保恵美子さん(20)

は「書道のお堅いイメージを変えたいと思った。風情を味わってほしい」と話している。午

前11時〜午後2時。28日まで。
(讀賣新聞2010年3月28日(日曜日)の新聞より)

ズームひと 活動続け地域おこし

2008年6月の岩手・宮城内陸地震で被災し、宮城県側で通行止めとなっていた国道398号が、きょう18日正午に開通する。同国道は、湯

局も献身的に動いてくれたことが、成功につながった。

―実行委を会員制とした理由は。

高橋 地元の温泉組合や観光協会が中心になるのが一般的だが、今回はより幅広い住民に参加してもらおうと、会費制で会員を募った。最終的に100人を超える人が賛同してくれた。予想以上に会員が集まり、うれしい驚きだった。皆瀬地域だけではなく市内全域の人が、生活や経済、文化面で国道398号は重要なルートだと再確認した証しではないか。今回の広域的なつながりは、これからの湯沢市にとって大きな力になる。

―プレイベントを振り返って。

高橋 天氣に恵まれ、たくさんの方が皆瀬の自然の中で吹奏楽演奏などを楽しんでくれた。開通を事前にPRし、地域を少しでも元気にしたいという目的は達成できたと思う。皆瀬地域内外から実行委に参加した30〜40代の若い人たちが意欲的に活動し、事務

浦野匡彦先生

本年は二松學舎元舎長・理事長・学長、浦野匡彦先生の生誕百年に当たる。

これを記念し、九月十三日、

二松學舎大学柏キャンパスにおいて、浦野匡彦先生生誕百年祭が行われた。

大山徳高理事長、水戸英則

常任理事、渡辺和則学長ほか

という記録も残る。川連漆器も、以前はこの街道を通って県外に売られていたという。国道が整備される前から、湯沢と近隣を結ぶ重要ルートだったということも、多くの人が感じてもらえたかった。

―通行止めとなっていた2年3カ月間で感じたことは。

高橋 出身が旧皆瀬村で、一帯の自然は、自分の人格形成に大きな影響を与えた。現在も週1回ほど、皆瀬で兄が経営する乳製品製造会社「栗駒フーズ」を手伝っている。夏場の売店の売り上げは、通行止めで普段の4分の1に落ちた。それだけ、岩手、宮城両県や首都圏からの観光客が減ったのだろう。2年間、皆

生誕百年祭

法人役員、浦野匡彦先生御親族の方々をはじめとする関係者が列席する中、十一時より大学柏校舎浦野匡彦先生銅像前で、香取神社・森宮司による生誕百年祭の神事が厳かに執り行われた。

生誕祭に続き、浦野先生の遺徳を顕彰するために建立さ

瀨地域は袋小路の状態になり、他県との交流が途絶えてしまった。各旅館や商店にとつて、本当に苦しい期間だったと思う。

―国道開通への期待と、実行委の今後についてどう考えるか。

高橋 実行委では一回きりのイベントで終わるのではなく、継続的な形で何らかの活動ができたらと話している。昔から使われていた街道沿いの歴史や文化を掘り起こし、宮城県側と密に連携すれば、地域おこしにつながるのではないかと。皆瀬村と花山村は、緊密な交流があった。それだけが市町村合併を進め、新市同士で新しい関係が始まるとうとうときに地震が起きてしま

れた「城山詩碑」(城山は浦野先生の号)及び沼南校地取得の由来を裏面に記した、元舎長吉田茂先生揮毫「双松凌秋碑」の移設除幕式が沼南高校正門前で挙行された。

この二つの碑は新体育館建築に伴い、沼南高校の校地西南隅から、正門両脇に移設されたもの。

(二松學舎新聞第51号より)

高橋三男さん(66)

たかはし・みつお 1943年10月4日、湯沢市皆瀬(旧皆瀬村)生まれ。二松學舎大学文学部卒。66年から県内で高校教諭。退職後の94年から2年間、中国・河北大学で日本古典を指導した。現在、横手清陵学院高非常勤講師。湯沢市岡田町住。

(秋田さきがけ 2010年9月18日土曜日)の新聞より)